

第3回 地域コミュニティ・PTA 部会 会議報告

日 時:令和7年5月28日(水)

午後6時30分～8時 15 分

場 所:川岸小学校 2階 ふれあい教室

1. 次 第

- 1.開会
- 2.配布資料について
- 3.PTA 組織の検討について
- 4.その他
- 5.閉会

2. 概 要

(1) 配布資料について

- ・PTA 専門委員会一覧表(事前配布)
- ・各専門部会の会議報告

(2) PTA 組織の検討について

■PTA の専門委員会の新組織(案)について

専門委員会の新組織(案)は、現在の小中両校の専門委員会で、類似する役割を持つものを、単に、統合したもの。この組織案を原案として、新組織および事業の審議・検討をしていく。

現 在

学校名	委員会名
川岸小	・文化委員会 ・図書委員会 ・校外指導委員会 ・学級 PTA 委員会 ・父親委員会
岡谷西部中学校	・厚生委員会 ・教養・広報委員会 ・校外指導委員会 ・学年・子育て委員会

開校後(案)

委員会名
・教養・文化委員会 ・安全・校外委員会 ・厚生委員会 ・学級・子育て委員会 ・特別活動委員会



< 専門委員会の新組織(案)等に対する主な意見 >

■ 専門委員会の新組織全般について

・現在の選出基準に基づいた委員会の人員構成とすると、新組織に多くの人員が必要となる。少子化にあり、PTA 組織の安定した運営、各家庭の負担の軽減上、スリム化が必要。

・認定こども園やコミュニティとの今後の関係性を考えると、各所との連携に取り組む委員会があってもよいと思われる。ただし、組織が大きくなるまいよう、連携のための新たな委員会を設置するのではなく、新組織案に示された委員会に役割を担わせることとするのがよいと考える。

・委員会名は、家庭的・社会的な観点を踏まえたものとするのがよい(例:男女共同参画など)。

■ 小中専門委員会の統合に伴う事業の割り振りについて

・現在の小中学校の委員会を統合し、委員会の新組織へ既存事業を割り振る場合、現在と比較し、役員総数は減らせるが、一つの委員会の事業および役員の負担が増えることとなる。既存事業の見直し(スリム化)と、新組織での事業分担(事業量の均等化)の検討が必要。また、事業の見直しにおいては、子どもたちのためになること、先生を支えるという視点も必要。

・中学校の教養・広報委員会の「たこやま市場」への協力、校外活動指導委員会の「雪かき」は、労力・人員が必要なため、すべての委員会で協力するのがよいと思われる。ただし、雪かきは、現在、小中学校で対応が異なっていることを踏まえるとともに、見直していく必要もあり。

→小学校:通学路の雪かきを家庭・地域に依頼。学校敷地内は、先生と児童で対応

→中学校:働き方改革として、学校の先生の仕事としていない。地域の人にもお願いしていない。

・川岸小の父親委員会の「ふれあい参観日」の企画等は、PTA 会報の発行、講演会の企画等を行う、教養・文化委員会の事業とするのではなく、運動会や地域イベントの支援を行う特別活動委員会の事業としてもよいと思われる。

■専門委員会の事業および事業運営方法の見直しについて

・事業のうち、子どもたちの力を借りて実施できることがあれば、学校とも連携しながら取り組めると、子どもたちの学びにもつながるのではと考える。例としては、以下のとおり。

・小学校の4年生は、学校で新聞制作に取り組む時間があるため、PTA 会報の1つ(校長・PTA 会長への取材、記事のとりまとめ)の制作・発行に携わっていただき、広く家庭に行き渡るものが出来上がった経験は、貴重なものとなるのではないかと考える。

・中学校のたこやま市場は、学校の備品購入のための資金を得る機会であり、収益を上げるために、生徒自らが考え、準備・運営する経験は、学びになると考える。

・PTA 会報は、PTA 事業を周知し、多くの方に事業に参加・協力してもらうためのツールであり、今後も大切にしていきたい。

・小学校の「ふれあい読書会」は、ボランティアの方の力を借りることができるとありがたい。

・コミュニティスクールへの PTA 事業の一部移管は、スタッフの高齢化や就労者の増加のため、昼間の事業では難しいと思われる。

・各委員会の思ったような協力・成果が得られない事業や人員調整に労力を要するなど、課題・負担が生じている。大変な苦労だと思うため、現状把握の上で、見直しをしていく必要がある。

(3) 次回の部会での検討事項

- ・各委員会の活動内容の精査および委員数の検討
- ・地域コミュニティとの関わり方の検討

(4) 次回の日程について

6月30日(月) 午後6時30分 開催予定
川岸小学校 2階 ふれあい教室